

◎ ペレット関連情報

■エコビレッジ構想を推進している富山県南砺市、市役所 8 庁舎に木質ペレットストーブを 10 台設置。11 月 13 日に福野庁舎 3 階市長室前ホールで点火式を実施。導入ストーブは地域でペレットストーブの自社開発と製造販売に取り組んできた (株) 西村精工 (同市) 製の「エコティ RP02」。実際の使用環境に直に触れてもらうことで、木質バイオマスエネルギーや森林資源の活用などについて広く理解を深めてもらうことを目的としている【同市：2015/11/13、OSRNo.208：2015/12/09】

<https://www.city.nanto.toyama.jp/cms-sypher/www/info/detail.jsp?id=15308>

■バイオマス発電事業のコンサルタント及び燃料の生産・輸入・販売を行うバイオマスパワーコンサルタント (株) (東京)、愛知県内での日本最大規模の木質燃料ストックヤード建築計画を発表。建設規模は日本最大クラスの約 4,000 坪。木質ペレット 90%、PKS 等が 10%の割合で、(50MW クラスの木質ペレット専焼火力発電所 1 基あたり 4 週間分の燃料に値する) 合計約 21,000t の貯蔵が可能。ここから近隣地区の火力発電所に供給を行う。着工は 2016 年 1 月、完成は 2017 年夏の予定。同社が困難とされる木質バイオマスの安定供給基盤の強化を目的とし、2015 年 3 月にスタートさせた「BPC バイオマスプロジェクト」の一環[同社：2015/12/08、朝日新聞：2015/12/09]

<http://www.bpc.tokyo/#!-news/cqi>

http://www.asahi.com/and_M/information/pressrelease/Cdpress000123944.html

■昭和シェル石油 (株) (東京)、12 月 9 日に京浜バイオマス発電所の竣工式を実施。同発電所は木質ペレットおよび PKS を燃料とし、発電出力は 49,000kW。11 月 2 日から運転を開始している[同社プレスリリース：2015/12/09]

http://www.showa-shell.co.jp/press_release/pr2015/120901.html

■兵庫県内、丹波地域の 2 カ所で「木の駅プロジェクト」。篠山市垣屋では 2012 年 12 月に市民グループ「丹波篠山木の駅実行委員会」が開始。軽トラ 1 台分 350kg の木を 2,000 円分の地域通貨「里山券」と交換。うち 1,000 円は市が補助し、券は市内の飲食店や食料品店など 22 店で使える。集まった木は薪やペレットストーブの燃料に加工して販売。丹波市内でも 2015 年 9 月、NPO 法人「丹波グリーンパートナー」がプロジェクトを始動。6,300

円/t（現金 3,300 円とたんば共通商品券 3,000 円分）で買い取り、うち 3,000 円は市の補助金【神戸新聞：2015/12/15】

<https://www.kobe-np.co.jp/news/shakai/201512/0008648101.shtml>

■北海道石狩市の花川南コミュニティセンターでペレットボイラが稼働開始。これまで使用していた重油ボイラ 2 基のうち 1 基をペレットボイラに交換。暖房の配管の組み替えも行い、使用している部屋だけに効率よく暖房を供給することが可能に。事業費は約 6,000 万円で道の「グリーンニューディール基金」からほぼ全額補助を受けた。ペレットは市内厚田区の「ふれあいきのこ村」の使用済み菌床を乾燥させて加工したもの。市は 2014 年、厚田区のあいかぜ図書館と厚田、聚富の両保育園の計 3 カ所にペレットストーブを導入し、2015 年は花川南コミセンの暖房と館内にある高齢者用の浴場にペレットボイラを導入することになっている【47News：2015/12/16】

http://www.47news.jp/localnews/hokkaido/2015/12/post_20151216164742.html

■井上電設（株）とバイオマス流通システムの開発・運用等を手掛けるラブ・フォレスト（株）（長野）が「ペレットプラント小型・移動式 PMP」を開発。ラブ・フォレストがコンセプトとデザイン、井上電設が設計・製造を担当。粉砕機、原料供給機、新興工機（株）（愛媛）製ペレタイザー S-5（生産能力 10～40kg/h）、トロンメルクーラー、サイクロン式集塵機が脱着装置付コンテナ車（4t 車）1 台に装備されており、設置・移動が容易にできるようになっている。動力は合計で 8.95kW、総重量 3,000kg。多様な原料への切り替えが可能。大学等における研究開発、自治体・NPO のデモンストレーション等を想定しており、試用貸出も可能【OSR No.209：2015/12/16、井上電設（株）HP、ブログ】

<http://www.inoue-d.co.jp/products/pmp.html>

<http://inoued.exblog.jp/>

■ふるさと納税・寄付について情報発信しているサイト「ここふる。」のお礼の品人気ランキング 1 位は（株）相愛（高知）製造の「高知県宿毛市産木質エコペレット」。同市に 1 回 10,000～19,999 円の寄付をした場合に選択できる「お礼の品」の一つとして挙げられている【ここふる。：201512/10】

<http://cocofull.net/ranking/>

■ペレットクラブ（長野）、「木質ペレット燃料に関する ISO 規格の採用について」プレスリリース。2011 年に木質ペレット燃料に関する自主規格（PC WPFS-1：2011）を発表し運用していたが、同規格のベースとなっている欧州規格（EN14961：2010）が ISO 規格（ISO 17225：2014）にアップデートされたため。バークペレットに関しては ISO 規格に数値の規定がないため、別途「J クラス」として自主規格を作成する。また製品の認証制度について

ても ISO 規格（バークは別規格）をもとに実施する予定。これに伴い、ペレットストーブ等の燃焼機器においても使用燃料の品質規定は ISO 規格を推奨するとしている【ペレットクラブ：2015/12/25】

<http://www.pelletclub.jp/library/2015/12/iso1225.php>

■長野県伊那市、森林整備で切り捨てられる間伐材について持ち込み、受け入れの双方に奨励金を交付する制度を創設。奨励金制度は市内の住民や法人、地区、地域団体などが市内登録事業者の間伐材や枯損木、倒木などを持ち込んだ場合 2,000 円/m³を交付。受け入れた業者にも同 1,000 円を支払う。市は持ち込み側に個人のほか、地区の森林生産組合や財産区などを、受け入れ側には上伊那森林組合や薪を販売する民間事業者などを想定。事業者はこれまでに 5 団体が登録。薪や木質ペレットの生産・利用の拡大や林業従事者の所得増大など、森林資源やお金の地域内循環を生み出したい考え【長野日報：2016/01/01】

<http://www.nagano-np.co.jp/modules/news/article.php?storyid=35985>

■会津電力（福島県喜多方市）と南会津町の有志が 1 月 27 日、町内未利用間伐材等を活用したペレットで電気を起こす地域電力会社「南会津電力」を設立。木質バイオマス発電の過程で生じる廃熱を冷暖房や給湯に利用するコージェネレーション普及を目指す。廃熱については販売する方針で、商用のコージェネ事業化は県内初。利用を希望する施設の敷地内にコージェネ用発電設備を設け、配管などを通じ高い温度を保った状態で廃熱を供給。発電した電力は東北電力に売電する予定。高額な初期投資など採算性が課題となるが、原発事故を教訓に災害に強い自給自足型エネルギー供給のモデルケースにしたい考え【福島民友：2016/01/03、YOMIURI ONLINE:2016/01/14】

<http://www.minyu-net.com/news/news/FM20160103-039567.php>

<http://www.yomiuri.co.jp/local/fukushima/news/20160113-OYTNT50114.html>

※ OSR・・・オンサイト・レポートの略